

## 第5学年 国語科学習指導案

日時 平成16年10月13日(水)  
児童 男子5名 女子5名 計10名  
指導者 教諭 古戸 淳一

- 1 単元名 体験したことを分かりやすく伝えよう  
教材名 わたしたちの学校生活

### 2 単元について

#### (1) 単元の主目標

学習指導要領国語科の5・6年生の「書くこと」の目標は「目的や意図に応じ、考えたことなどを筋道を立てて文章に書くことができるようにするとともに、効果的に表現しようとする態度を育てる。」である。その中でも特に内容ウ「自分の考えを明確に表現するため、文章全体の組立ての効果を考えること。」を中心に指導するために設定した。

主目標は、「学校生活で体験したことを文章の組み立てや言葉の使い方を工夫して分かりやすく書き、相手に伝えることができる。」である。

その他に、学習指導要領国語科の5・6年生の「書くこと」の内容エ「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること」についても、単元の学習を通して指導していく。

#### (2) 単元について

本単元では、自分の体験の中から学んだことなどを作文に書き、スピーチする活動を通して伝えたいことを相手に分かりやすく表現するための効果的な書き方を学習する。単元の終わりに、下級生へ5年生になってからの体験やそこから学んだことを伝えるという活動を行う。

また、相手に分かりやすく伝えるための効果的な段落の組み立てを考えるために、カードを使って取材・選材し、構成表にまとめることも学習する。

#### (3) 子供の実態

子供たちはこれまで、「依頼の手紙・お礼の手紙」において、相手や目的に応じて文章表現を工夫し、伝えたいことを的確に書く学習を行ってきた。また、「言葉の研究レポート」では、調べたことを整理して分かりやすく書くためのレポートの構成を学習した。

日常の書く活動では、日記や行事作文などに取り組んでいるが、これらの活動を通して自分の思いを文章に表現できるようになってきている。

文章を書くことに意欲的に取り組めるようになってきてはいるが、相手を意識して文章を書くという意識の低い子供、伝えたいことを分かりやすく効果的に表現するための文章全体の構成を考えることができない子供も見られる。

#### (4) 単元と子供の関わり

子供たちは、学校生活を通して様々な経験をし、そこからたくさんのことを学んでいる。

しかし、それらの体験をふり返り、考えることは少ない。

そこで、本単元では、学校生活における自己の体験を下級生にむかって伝えるという活動を設定することで、自己の活動をふり返る機会としたい。そして、自分の体験を下級生にどのように伝えたいのか、どのような構成で伝えることによって、自分の思いがより効果的に伝わるのかを学ばせたい。そして、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど効果的に書くことや効果的な構成の工夫の必要性を学ばせたい。

#### (5) 指導にあたって

第1次では、自分たちの体験の中で、4年生が知りたいことをアンケート調査し、誰に何を伝えるかという「相手意識・目的意識」をはっきり持たせたい。そして、第2次以降も相手や目的を意識して書く活動を行わせたい。また、より効果的に伝えるための文章全体の構成についても例文をもとに考えさせたい。

本時では、伝えたいことを記述する段階なので、書き出しの工夫・段落のつながり・詳しく書くところ簡潔に書くところに気を付けさせながら、相手によく伝わるように、効果的な文章を書くようにさせたい。そのために、事前学習で提示した例文をもとに、どのようなことに支店を置けばよいのかを確認させながら書かせていきたい。また、構成表をもとに、効果的な文章構成も確認させながら作業を進めさせたい。

評価活動では、お互いの文章を交流し合うことで、友達のよさに気付かせたい。また、それを自分の文章のふり返りに生かしながら、さらによい文章が書けるようにさせたい。

### 3 単元指導目標

#### 単元の主目標

学校生活で体験したことを分かりやすく書いて、相手に伝えることができる。

#### 【国語への関心・意欲・態度】

伝えたい体験と想いを相手や目的を考えて、分かりやすく伝えようとする。

#### 【書くこと】

伝えたい体験と想いが相手に分かりやすい文章になるように、構成を工夫して書くことができる。  
(書 ウ)

必要に応じ詳しく書いたり、簡単に書いたりすることができる。  
(書 エ)

#### 【話すこと・聞くこと】

学校生活で体験したことを相手を決めてわかりやすくスピーチすることができる。

(話・聞 ア)

#### 【言語事項】

文や文章にはいろいろな構成があることを理解することができる。

(言語 オ)

4 単元指導計画 (12時間)

過程	時間	学 習 活 動	評 価 規 準
第 1 次	1	「『書く』ということ」を読み、「書くこと」について理解を深める。	教科書を読み、「書くこと」について、理解しようとしている。 【関】 教科書を参考に、簡単な文章を書考としている。 【書】
	2	学校生活で体験したことを話し合い、誰に、何を、何のために伝えるのかを決める。 ・心に残っている体験について話し合う。 ・話し合いを基に、誰に何を何のために伝えるかを決める。	5年生になってから体験したことを振り返って、誰に、何を、何のために伝えるのか考えようとしている。 【関】 体験したことを書き出し、誰に、何のために伝えるのか考え、自分は何を伝えたいか決めている。 【書】 漢字や語句について理解している。 【言】
第 2 次	3	伝えたいことについて必要な事柄を書き出して整理する。 ・体験したことを取材メモに書き出す。	伝えたい体験と思いを表現するために、必要な事柄を書き出し、整理しようとしている。 【関】 伝えたい体験と思いを表現するために、詳しく思い出して必要な事柄を書き出し整理している。 【書】
	4	教材文から、伝えたいことを効果的に表現する文章構成の仕方を考える。 ・教材文を読み、効果的な文章構成について理解する。	教材文から、伝えたいことを効果的に表現する文章構成の仕方を考えようとしている。 【関】 伝えたいことを効果的に表現するための文章構成の仕方について理解している。 【書】 様々な文章構成の仕方があることを理解している。 【言】
第 3 次	5	伝えたいことについて効果的な文章の構成を考える。 ・取材メモを取捨選択しながら、構成を考える。	伝えたい体験と思いがよく分かるような文章の構成を考えようとしている。 【関】 伝えたい体験と思いがよく分かるように、効果的な文章の構成を考えている。 【書】 様々な文章構成の仕方があることを理解している。 【言】
	6 本時 ・ 7	伝えたいことについて文章を書く。 ・構成をもとに、相手に思いが伝わるように効果的な文章を書く。	伝えたい体験と思いがよく分かる文章を書こうとしている。 【関】 構成をもとに、必要なところを詳しく書き、そうでないところは簡単に書くなどの効果を考えて文章を書いている。 【書】 伝えたいことがよく分かるような文末表現について理解している。 【言】
第 3 次	8	文章の推敲をする。 ・推敲の視点に沿って読み直させる。	書いた文章を読み返し、推敲しようとしている。 【関】 書いた文章を観点に沿って推敲している。 【書】 伝えたいことがよく分かるような文末表現について理解している。 【言】
	9	友達の作品を読み、よいところを見付ける。	友達の作品を読み、伝えたい体験や思いを工夫しながら書いているところを見付けようとしている。 【関】 推敲するときと同じ観点で友達の作品を読み、伝えたい体験や思いを工夫しながら書いているところを見付けている。 【書】
第 4 次	10	書いた文章をもとにスピーチ原稿を作る。	相手に思いを伝えるスピーチをするための原稿を書こうとしている。 【関】 文章をもとに、相手や目的、時間を考えスピーチメモを作ろうとしている。 【書】
	11	スピーチの練習をする。	相手や目的を考え、まとまりごとに間をおいたり声の調子を改めたりして、相手に分かりやすいスピーチの練習をしている。 【話す・聞く】
	12	4年生に活動報告会を行う。	聞く人の方を見て、まとまりごとに間をおいたり声の調子を改めたりして、相手に分かりやすいスピーチをしている。 【話す・聞く】

5 本時の指導

(1) ねらい

【書くこと】 構成をもとに、自分の伝えたいことがはっきり分かるように、必要に応じて詳しく書いたり、簡単に書いたりするなどの効果を考えて文章を書くことができる。

(2) 本時の展開 (6 / 12 時間)

過程	主な学 習 活 動	・指導上の留意点 評価
つ か む 5	<p>1 学習課題の把握 めあてを把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分の思いが相手によく伝わるように、文章を書こう。</p> </div> <p>2 視点の確認 自分の思いをよく伝える文章を書くための視点を確認する。 ・書き出しの工夫 ・段落のつながり (接続語) ・詳しく書く・簡潔に書くの区別</p>	<p>・学習課題を把握させる。</p> <p>・相手意識・目的意識・考えた文章構成を確認させる。 ・視点を確認し、効果的な文章を書く上でのポイントを確認する。</p>
ふ か め る 30	<p>3 記述 視点に気を付けながら、文章を書く。</p>	<p>構成をもとに、必要なところを詳しく書き、そうでないところは簡単に書くなどの効果を考えて文章を書いている。</p> <p>A つなぎ言葉を適切に使い、一番伝えたいことが分かるように、事柄によって詳しく書いたり簡単に書いたりしている。 相手意識・目的意識を持って書いている。 伝えたいことの中心が伝わるように、効果を考え、詳しく書く所と簡潔に書く所をはっきりさせ書いている。 書き出しや文章表現などの工夫をしてる。 接続語を適切に使い、段落のつながりを考えて書いている。</p> <p>B 考えを明確に伝えるために、詳しく書いたり簡単に書いたりしている。 相手意識・目的意識を持って書いている。 必要に応じ、詳しく書いたり簡潔に書いたりしている。 書き出しや文章表現などの工夫をしている。</p> <p>⊙ ① 伝えたいことが相手に分かるように、詳しく書く部分と簡単に書く部分をはっきりさせることや、つなぎ言葉の使い方について指導する。 記述に躓いている子供には、例文をもとに、相手に思いを伝えるための表現の工夫について考えるようにさせる。 (個人診断票から)</p>
ま と め る 10	<p>4 本時の学習のふり返り 書いた文章を交流し合い、友達の表現の工夫を見つける。 相互評価 自己評価</p> <p>5 次時の確認 文章の仕上げを行うことを確認する。</p>	<p>・友だちの良さを見つけ、次時の自分の作業に生かせるようにさせる。 相互評価、自己評価ができる。 (評価シート)</p> <p>相互評価にとまどうときは、視点を確認しながら、友達や自分の作品を見直すようにさせる。 (個人診断票から)</p>